



新型コロナウイルス感染症の影響により2年間開催されなかった、鹿児島県の無形民俗文化財にも指定されている「川内大綱引」。

今年も、綱引き自体は行われないものの、9月22日(木)、綱練りと神事のみ執り行われることになりました。そこで今回は、川内大綱引について探っていききたいと思います。



そもそも川内大綱引って？

川内大綱引は、慶長年間(1596-1614年)に始まったとされ、一説には関が原の合戦の際、第17代島津家当主島津義弘が兵士の士気を高めるために始めたといわれているそう。

400年以上の時を経て人々の心に深く根付いた大綱引きは、歴史と伝統を守り秋の名物として受け継がれてきました。大綱引当日は、朝から半日かけて約1500人の人力で365本の縄を練り上げ、長さ365尺、重さ7トに及ぶ大綱を完成させます。本番では、約3000人の「ハダカ」と呼ばれる上半身にサラシを巻いた男たちが、「上方」「下方」に分かれて一斉に綱を引き合います。また、相手の引き隊を妨害するために、相手陣内に押し込んでいく「押し隊」と呼ばれる男たちの体と体が激しくぶつかり合う姿は圧巻です。

川内大綱引のルール

①綱割り (勝負開始)
勝負はまず太鼓合戦で始まり、引き合戦と押し合戦が繰り広げられます。押し勝った方が相手の引き隊を払いのけ、綱を引きます。

【ワサかけ】
綱を引かれた方はワサをダン木にかけ、綱を持って走り、ワサかけをします。

ここに絶対に入っては いけません。

②終了・勝敗
一定時間経過すると綱にノコを入れ、綱を切って終了となります。勝敗は綱の中心が自陣にある方の勝利となります。



川内大綱引と言ったら本番の熱い戦いに目が行きがちですが、綱引きには欠かせない「大綱」。これが毎年、本市で原料から地元の方々の手によって作られているって話を耳にしました。あんなに大きな綱が本当に？今回綱に注目し真相に迫りたいと思います。



大綱ができるまで

今回は実際に川内大綱引の基となるわら縄を作っている松下四男さんと若下純一さんにお話を伺うことができました。

①大綱の原料となるわらの確保

材料となるわらを確保するため、前年から市内の農家の方と契約するところから準備は始まります。わらは稲刈りと同時に粉碎して田んぼに巻くのが一般的ですが、わざわざ手間をかけ、掛け干ししてもらったわらを納入してもらおうとのこと。天候やその年の出来にもよりますが、約3〜4分と相当な量のわらを準備するんだそう。



▲掛け干しの様子



▶契約農家には立て札もあるみたい

②わら縄の準備

材料が集まると、わらをより合わせて縄を作っていく「なわな機」によって、1玉400玉、合計400玉以上の縄を作っていきます。



昔は買っていたわら縄を自分たちで作り始めたのは、平成22年からなんだとか。なわな機は、当時から使っている機械で2台しかなく、1日に7玉作るのが目標だけど、1玉2玉しか作れない日もあるそう。機械を作ったメーカーも今はなくなっていて、メンテナンスや部品供給は行われていないみたい。じゃあ、故障したときはどうするのかな？



もっと話を聞いていくと、驚くことになわな機のメーカー名にちなみ付けられた「ナンモト会」という特別チームを川内大綱引保存会で作り、自ら機械の整備を行っているということが分かりました。



摩耗した部品を市販の代替品で補ったり、必要があれば自分たちで製作もしたり、また、設計図を作って業者に部品を発注したりして機械が動くようにしているんだって。さらに、新しいなわな機を作ろうとしているという話も。すごい！

綱練りは長年の勤を培った職人技と大勢の力が結集して行われる、実に大変な作業です。最後に川内大綱引の特徴でもあるワサと呼ばれる輪を両端に作ってやっと大綱の完成です。



大綱引の魅力を感じたければぜひ、参加・見学を

川内大綱引を題材にした映画「大綱引の恋」にも登場した飲食店「綱ごころ」で大綱引の長年の経験者にお話を伺いました。

一度、東京に出たにもかかわらず、大綱引のある9月22日だけは何としてでも川内に帰り、綱引きに参加してきたそうです。その方が初めて参加したのは中学生。一番太鼓をした家族の背中を見て育ってきたと言います。

「当日に至るまでこの行事に関わる人たちがどんな思いで準備してきたか、どんな気持ちで勝負に臨んでいるか、みんなの真剣さや雰囲気を感じてくれる熱いお祭り。毎年、何が起ころるか分からない。当日までの準備や綱を作るまではつらいけれど、毎年参加する多くの人の協力がなければ川内大綱引は成り立たない。綱練りこそ、ぜひたくさんの人に体験してほしい。」

また、たくさんの方に学生に綱練りに参加してもらい、この伝統を引き継ぐ後継者になってもらえたらと思う。」

それぞれが熱い思いを持ちながら協力して取り組む伝統行事「川内大綱引」。皆さんもその熱気を感じに来てみませんか？

今年も、9月22日(木)に川内川左岸河川敷(開戸橋と大平橋の間)で開催されます。なお、綱練りの観覧は、階段上のみとなります。係員の指示に従い、感染症対策をしっかりとした上で観覧ください。

※雨天や新型コロナウイルス感染症の感染状況など場合によっては中止 ※詳しくは、川内大綱引保存会HPでご確認ください。

時間	内容
9時30分	綱出し開始
14時	綱練り終了予定
16時	神事



▲川内大綱引保存会HP

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがあれば、情報をお寄せください。 問合せ／本庁秘書広報課 企画総務・広聴広報 G(内線4122)